

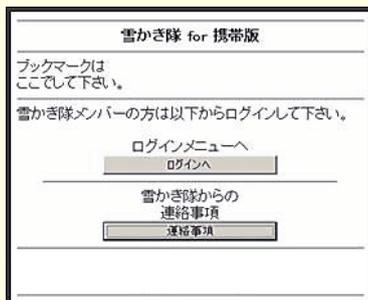
北海道工業大学

北海道工業大学は、人と環境に調和した技術開発を教育理念の中心として、創造性豊かで健全な心身を備えた人材を育成することで、産業の発展と地域社会の活性化に寄与することを使命として建学された大学です。

この北海道工業大学には、学生で構成するボランティア組織「雪かき隊」があります。雪かき隊とは、キャンパス周辺の高齢者世帯の除雪を請け負うことを目的としたボランティア組織のことで、



▲一生懸命除雪します



▲携帯電話の画面

北海道工業大学には、学生が独自に企画したプロジェクトに対し、資金などの援助を行う「夢プロジェクト」という制度があります。雪かき隊は平成17年度にこの制度に応募し、計画が認められ結成に至りました。2年目となる平成18年度は、雪かき隊が選んだ大学近隣の5町内会に呼びかけ、3町内会の高齢者21世帯を対象としました。また、大学内で雪かき隊員を募ったところ、103人の学生が集まりました。

「雪かき隊」の特徴は、携帯電話を媒体として活動していることです。具体的には、携帯電話を利用して、各自の週間スケジュールをシステムに登録し、その後、除雪を依頼する電子メールを自動的に隊員に送信する仕組みとなっています。



▲テレビ取材も受けました

わたしたち学生は、ボランティア活動をしたいと思っても、なかなかできません。その理由は、日程が合わなかったり、活動場所が遠かったり、費用がかかったりすることなどです。本当は、多くの学生がボランティア活動をしたいのだと思います。

この雪かき隊が、ボランティアに興味のある学生に、気軽に、無理なく参加してもらえるきっかけになり、さらには学生のボランティア精神を涵養する活動になればよいな、と思っています。

対象となった高齢者世帯の方も、学生と話すことがうれしいとおっしゃってくれますが、わたしたちもお話することがうれしいのです。除雪ボランティアで何うと、1時間くらい話し込んでしまう世帯もあります。また、「リハビリも兼ねて雪かきしていたのよ」と、元気な姿を見せてくれる高齢の方から、わたしたちももっと頑張らなくちゃーと、逆に元気をもらうこともあります。

今年、雪が少なかったので、「もし降ったら、その時すぐに来てほしい」との要望をいただくことができました。今の雪かき隊の体制では、そのような要望に応えることは難しいのですが、次の冬へ向け新たな課題ができました。今後も雪かき隊を続けていきたいと思っています。



▲力を合わせて頑張ります

今月は、地域と学校の、ぬくもりあふれる交流をご紹介しました。これからも、地域の皆さんのさまざまな力を合わせたまちづくりへの取り組みを、積極的に取り上げていきます。

北海道工業大学

札幌稲雲高等学校

札幌稲西高等学校

活動を紹介していただいた皆さん(左から)



雪かき隊の旗

次期隊長の三浦康宏さん(3年生)、現隊長の五十嵐美奈さん(4年生)(共に社会基盤工学科所属)



顧問の白井茂樹先生、生徒会執行部員の蝦名拓也さん(3年生)



池本真澄さん、顧問の小栗聡子先生、部長の木原史恵さん、顧問の伊藤伸子先生、副部長の藤原真実さん(部員は全員2年生)